

県内各社、学生らを激励

内定式「対面」強まる



土屋諭常務から内定通知書を受け取る代表の所華那さん＝大垣市宮町、クインテッサホテル大垣



池田直樹社長のあいさつに耳を傾ける内定者＝岐阜市神田町、十六フィナンシャルグループ本社

2023年卒業予定の大学生らへの採用内定が1日解禁となり、週初めの3日は多くの県内企業で内定式があった。依然として新型コロナウイルスの影響が続く中で、今年は対面実施する動きが強まった。内定者は同期と顔を合わせ、来春の入社に思いを強くした。

大垣共立銀行は、グループの内定式を大垣市宮町のクインテッサホテル大垣で開いた。3年ぶりの対面開催で、内定者106人が出席。土屋諭常務が「皆の個性や才能、努力を力にしたい。あと半年、コロナでできなかったことを存分にやってほしい」と激励。代表で内定通知書を受け取った所華那さん(21)＝南山大＝は「改めて責任と自覚が湧

十六フィナンシャルグループ(FG)は、2年ぶりに対面に戻し、岐阜市神田町のグループ本社で実施した。内定者119人を前に池田直樹社長は「お客さんや地域のために積極果敢に挑戦し、この地域で活躍する人材に育ってほしい」とあいさつ。内定者の奥菜々花さん(22)＝名古屋大＝は「内定式の緊張や不安がある中で、先輩の話を聞いて安心することができた」と話した。

西濃運輸は大垣市万石の大垣フォーラムホテルで開き、来年4月に合併する関西濃運輸(群馬県)、濃飛西濃運輸(関市)、東海西濃運輸(土岐市)の内定者を含む計60人が出席。小寺康久社長がビデオメッセージで「会社が成長するには社員一人一人の成長が必要。失敗を恐れず、何事にも挑戦して」と伝えた。ヒマラヤは岐阜市橋本町のじゅうろくプラザで実施。内定者が一堂に会する内定式は2年ぶり。出席者37人を前に、小森裕作会長兼社長は「感謝の気持ちを持って、スピード感を持って行動する、この二つを覚えておいてほしい」と激励した。内定者の瀬川侑奈さん(22)＝中京大＝は「会社の力になれるように準備をしたい」と力を込めた。他の企業では、岐阜信用金庫(岐阜市)、レシップ

ホールディングス(HD、本巣市)などが3年ぶりに対面の内定式を行った。コロナ下でも対面形式の内定式を続けるパロウHD(本部・多治見市)は1日にグループ各社で開催。太平洋工業は昨年、一昨年に続いてオンラインで実施した。